

学校教育ビジョン ◎校訓 「信」 行きたくてたまらない学校 行かせたい 行ってみたい学校 ◎学校教育目標 「豊かに学び 共に成長する子」の育成 ◎重点目標 「行きたい学校は、自分でつくる みんなでつくる」 ～自分から～ ～みんなのために～		【学力づくり部】 主体的に学ぶ意欲 基礎・基本の定着 課題発見・解決力の育成 【心づくり部】 おあしすの心 コミュニケーション力 豊かに生きる力（創造力・行動力） （おはよう ありがとう しんせつ すてきな言動） 【体づくり部】 たくましく生きる力の育成 よりよい生活習慣の推進 自己管理・危機対応能力の育成	
--	--	---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	中間の成果と課題	判定結果 (最終)	の改
①教育課程・学習指導	楽しい授業を主体的に行っていくとする児童の育成に取り組む。	めざす学級像や授業像をはなまるハートやはなまるスタイルとして全校で共有し、自分たちで振り返る活動を行う。	教務	漢字や計算の基礎的な力が定着してきた。基礎的な力をもとにして仲間とともに授業を作り上げようとしている。	(成果指標) 授業で課題の解決に向けて、自分から考え自分から取り組むことができる。	授業で課題の解決に向けて、自分から考え自分から取り組むことができた児童が、 A:80%以上である B:70%以上である C:60%以上である D:60%未満である	児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	95.6%の児童が肯定的に回答。はなまるハート・スタイルの取り組みを継続。自分から？を見つけ、仲間とともに解決する授業をより行うために、単元設計の充実を図る。		
	算数科を中心に、筋道を立てて考察する力を育成する。	言葉や図、数、式、表、グラフといった数学的な表現を用いて説明し合うことで、考えを広げ深める授業を行う。	研究	自力解決できる児童が増えてきた。題意を捉えて考えたり、理由や根拠を明確にして適切に説明したりする力をつける必要がある。	(成果指標) 算数の「思考・判断・表現」する力が身に付いている。	算数の活用力テストで正答率が80%に達した児童が、 A:80%以上である B:70%以上である C:60%以上である D:60%未満である	活用力テスト(学期末)の通過率で評価する。	C	活用力テストの結果、正答率が80%以上の児童が64%であった。単元を通して付けた力を明確にし、単元末には活用問題に取り組んでいく。考え、伝え合う学習活動を通して、数学的な表現を適切に用いて思考する力をつけていく。		
②生徒指導 ※いじめの未然防止	すべての教育活動において「おあしす運動」を柱とし、思いやりの心の育成に取り組む。	各月の生活目標に合わせ、児童の実態に応じた実践を考え全校で取り組む。	児童会	児童に「おあしすの心」が浸透し、よく意識できていた。思いやりのある言動への意識づけを高めていく。	(成果指標) まわりの人に親切にしたり、優しくしたりする。	まわりの人に親切にしたり、優しくしたりした児童が A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	児童アンケート(1,2学期末)から評価する。	A	児童アンケートの結果、97%の児童が肯定的に回答していた。2学期は児童発信でおあしす郵便を継続していく。また、児童会活動等を通して、児童の主体性を育成していく。		
	いじめを生まないために、児童の居場所づくりや絆づくりを進め、児童にとって「行きたくてたまらない学校」にしていける。	①どの子にとってもわかる授業を行う。②児童の行動をプラス思考で評価し伝える。③年間を通してたてわり活動を展開し、固定した人間関係を広げる。	生徒指導	多くの児童は学校を楽しみにしているが、昨年度は不登校傾向の児童も数名見られた。縦割り活動等を通して様々な人間関係を築けるようし、教職員全員でどの子にとっても行きたくてたまらない学校を目指す。	(成果指標) 学校に通うのが楽しいと感じている。	学校が楽しいと答えた児童が A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	児童アンケート(1,2学期末)から評価する。	B	児童アンケートで、89%の児童が「学校が楽しい」と答えており、多くの児童が学校生活に概ね満足している。一方で、「勉強が嫌い」などの理由から「楽しくない」と答えた児童が10%見られた。はなまるハート・スタイルの取り組みを通じて、どの児童も主体的に参加できるわかる授業づくりに取り組む。また、教職員全体でいじめへのアンテナを高くもち、対応していく。		
③キャリア教育・進路指導	様々な行事や活動に積極的に参加し、自ら考えて行動し、自主自律の精神と態度を工夫する。	係や委員会活動、学校行事等において、「めあて」と「振り返り」を中心に置き、児童自身が達成感をもてるような特別活動を工夫する。	キャリア	行事や委員会活動に積極的に取り組む児童や、責任感が強い児童が多い。今後は、自ら考えて行動し、人の役に立つ喜びを感じられる児童を増やしたい。	(成果指標) 自分にはよいところがあると思う	自分にはよいところがあると思う児童が、 A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	児童アンケート(1,2学期末)から評価する。	A	児童アンケートの結果、91%であった。これから全職員で児童のがんばりを見つけ、それを積極的に伝えることで、さらに人の役に立つ喜びを高めていきたい。また、児童同士が褒め合い認め合う機会を設けていきたい。		
④保健管理	よりよい生活習慣を推進し、児童の生活習慣の向上を図る。	「メディアコントロール」を学校保健委員会のテーマとし、チャレンジ週間に合わせて家庭と連携して取り組む。	保健	学力調査の質問紙から普段1日あたり3時間以上メディアを使用しているという児童が3割以上いる。	(成果指標) チャレンジ週間中、家庭でメディアのめあてを決め、守ることができる。	メディアのめあてを毎日守ることができた児童が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	チャレンジカード(7,12月)の結果から評価する。	B	チャレンジカードの結果、73.8%だった。チャレンジ週間をきっかけにして、メディアの時間を他の時間に充て時間を減らそうと前向きなめあてを持ち、実際に減らしている児童もいた。2学期も継続してメディアコントロールの意識アップに取り組んでいきたい。		
⑤安全管理	児童・保護者・教員の防災への意識を高め、具体的な行動につなげることができるようにする。	避難訓練の機会にチェックリストなどを利用して家庭と連携した事前・事後指導を行う。	教頭	防災意識の高まりが継続するよう家庭との連携を引き続き強化していく必要がある。	(成果指標) 防犯や地震・火災への備えについて家族の人と話し合う。	防犯や地震・火災への備えについて家族の人と話し合った児童が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	訓練終了後に児童アンケートを実施する。	A	1学期の火災訓練の児童アンケートで、防火について家族と話し合った児童は85%であった。だいたいの児童が、家庭で火災の危険や防火の備えについて家族と話し合い、当日の訓練では命を守る行動ができた。今後、地震などについてもしっかりと事前の指導を行い、家庭と連携した取組を進めていく。		
⑥特別支援教育	全教育活動において、全体も個も生かす指導の工夫をし、有効な支援を行う。	校内特別支援委員会を中心に、専門機関の協力を得ながら、全体や個に応じた支援を行う。支援方法を共有し、組織的な支援体制を確立する。	特別支援	児童理解に全職員で取り組んでいる。個別の支援策を記録し、有効に活用する。また、その支援策を職員全体で共有できるようにする。	(努力指標) 全体や個に応じた有効な支援に取り組む。	全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が、 A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	教職員アンケート(1,2学期末)から評価する。	A	アンケートでは、100%の教職員が「全体や個に応じた有効な支援に取り組んでいる」と答え、特別支援を意識することができている。今後も、児童の情報を共有しながら、全教職員で児童を見守っていく意識を高める。また、支援員配置を工夫したり、専門機関の協力を仰いだりなど、支援体制も充実させていく。		
⑦組織運営・業務改善	組織的に業務内容の精選・効率化・平準化に取り組むことを通してゆとりの時間を確保し、創造力あふれる教育活動を推進する。	総務委員会や各部署で業務の平準化・効率化などの業務改善の方策について話し合い、改善点を明確にし、実施する。	教頭	1月に45時間以内を年6か月以上達成できた職員が約6割であった。引き続き業務改善に取り組む。	(成果指標) 超過勤務が、1か月45時間以内を年6か月以上	超過勤務が、1か月45時間以内を年6か月以上を達成した職員が、 A:100% B:80%以上である C:60%以上である D:60%未満である	勤務時間記録で評価する。	C	4～7月の4か月間で、45時間以内を達成した月の回数が、4回(3人)、23回(2人)、1回(2人)、0回(1人)だった。職員1人1人がビジョンに基づいて責任をもって職務を遂行しているが、より効率的な組織運営を目指したい。また、ICTを活用してペーパーレス化を進めるなどして、さらなる業務の効率化を図る必要がある。		
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、学力向上につながる授業改善を図るとともに、教職員としての資質向上に努める。	校内研修やおあしす塾(若手早期育成プログラム)などで、職員のニーズに応じた研修会を企画することで、学校全体としての教師力の向上を図る。	教務・GIGA	校内研修に積極的に参加し、一人一人の多面意識が高い。若手からベテランまで、全員が意欲的に研修に取り組んでいる。	(成果指標) 教師力向上と人材育成を視野に入れた効果的な研修を、積極的に企画・立案・実行し、学んだことを活かす。	校内研修、おあしす塾(若手早期育成プログラム)などで学んだことを活かしたと思う教職員が、 A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	教職員アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	100%の教職員が校内研修を生かしていると回答。研修内容が先生方のニーズに応じたものになっており、研修時間や回数も適切だったと考えられる。また、先生方が適宜、教え合える環境が整っている。今後、先生方が互いの授業を見て、研修できるような支援体制をつくる。		
⑨保護者、地域との連携	地域の良さを生かした実践を通じて児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	地域の人材・資源を活用した授業実践などを推進し、地域とのつながりを深める。	教頭	90%以上の児童が加賀市・山中温泉・河南地区をいところだと思っている。しかし、コロナのため地域等外部の人材・資源を活用しての取組はある程度制限していた。	(成果指標) 加賀市・山中温泉・河南地区をいところだと思う児童	加賀市・山中温泉・河南地区をいところだと思う児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	アンケートでは97%の児童がよいところだと回答している。2学期以降も、外部の人材や資源を活用しての活動をカリキュラムに効果的に組み込み、児童の学力と郷土愛を育んでいく。		
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果の高い教育環境の充実を図る。	気持ちのよい学習環境を整える。危機管理に対する高い意識を持って安全点検に取り組む。	教頭	定期的な点検し、迅速に対応することができていた。マンネリ化しないよう点検項目を見直し、落ち度の高い意識を持って日々の点検に努める。	(努力指標) 気持ちのよい学習環境を整え、危機管理に対する高い意識を持って日々の点検に努める。	気持ちのよい学習環境を整え、危機管理に対する高い意識を持って日々の点検に努めることができた教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	全職員がよい学習環境を整え、危機管理意識を持って日々の点検に努めたことと回答。1学期は中庭や学校前の環境がすっきりと整備された。また、資料室や倉庫などの不要なものを廃棄し、整理整頓した。今後も気持ちのよい学習環境と安全に配慮した取組を進める。		

学校関係者評価	
---------	--